

「覚悟」

西分署消防隊 消防士 高垣 駿（平成26年入職）

民間から消防へ

親戚が消防士の仕事をされており、小さい頃からよく消防士について話を聞いていました。大学を卒業し一度は民間企業で働くことを選んだのですが、「もっとやりがいのある仕事をしたい」、「自分の能力を最大限に活かせる仕事をしたい」という気持ちが高まり、一大決心で仕事を辞め、消防士を目指しました。

地元は広島ですが、働く環境が良いこと、また親戚が働いており人と人の絆の強い職場だと常日頃から聞いていたことから、この「大東曙消防」を志望しました。



配慮



消防学校を修業し、現場に配属され強く感じるのは、広い視野を持つことです。災害現場では「チーム」として活動することが多く、先輩隊員の命を預かる使命感とともに、自分の命を仲間に預けられる信頼関係の構築が必須です。

この信頼関係を構築するためには、自分に与えられた業務はもちろん、同じ隊員のことを考えて行動することが大事だと感じています。

消防士2年目で、未熟な面が多々ありますが、少しでも早く多くの信頼を得られるように、毎日広い視野を持って、「目配り」、「気配り」、「心配り」を意識して日々の業務に従事しています。

今感じる想い

私は、初めて制服に袖を通し、自分の姿を鏡で見た時に「消防士になったんだ！」という感動を鮮明に覚えています。この感動を抱いたと同時に「人生をかけて全うする！」という覚悟を決めました。消防という職業は、それだけの覚悟が求められる職業です。

働く環境も良く、やりがいがあり、仲間意識の強いこの職場で、ぜひ一緒に大東・四條曙市民の生命、財産、安心を守っていきましょう。